



福島医大ふくしま子ども・
女性医療支援センター長

水沼 英樹氏

女性医学という診療分野をご存知ですか？

女性医学とは、女性の心身にまつわる疾患を、主として予防医学的観点で診ていくことを目的に新しく設立された産婦人科の診療分野の一つです。これまで産婦人科は周産期医学、婦人科腫瘍学、生殖内分泌学を三本柱として女性の健康を見守ってきましたが、ここに新たに予防医学の観点に加わり、産婦人科は盤石の体制でもって女性

性のヘルスケアを担うことになりました。

女性医学が新たに設立された背景には、わが国の少子高齢化と言う人口構成の大きな変化がある

が国の女性の平均寿命は世界でもトップレベルを維持していますが、自立して生活できる寿命、いわゆる健康寿命は平均寿命に比べて約十三年短い

るのですが、産婦人科が取り扱う疾患や異常においても生活習慣病と極めて深い関係にあるものが少なくありません。その代表格が閉経で、閉経に

より女性ホルモンが減り少しくまると、骨粗しょう症、脂質異常症、動脈硬化症などのリスクが女性に将来、高血圧症や脂質異常症に発展するリスクが明らかになってい

ますし、妊娠高血圧症までは行かなくとも妊娠中に血圧が高めであった女性には将来、高血圧症や脂質異常症に発展するリスクが明らかになってい

ます。また、若年女性の月経痛や、不妊症の原因疾患として治療が必要な子宮内膜症は閉経後、女性の脳卒中、循環器疾患などのリスクとなることと、あるいは子宮内膜がんや卵巣がんのリスクともなっています。

すなわち、これらの疾患を持つ女性はそれが判明した時点から、予防医学の恩恵を受けられることとなります。女性医学は女性の一生を通じてのヘルスケアを目的とする診療科目ですから、女性の皆さんはぜひそのかかりつけ医を持ち、一緒に自分の健康プランを考えてみてはいかがでしょうか。

生涯通じヘルスケア

り、高齢女性者に特有な疾患を予防医学の観点から取り扱い、そして健康寿命を延伸させなければならぬという切実な課題が生じてきたからです。ご存知のように、わ

が国の女性の平均寿命は世界でもトップレベルを維持していますが、自立して生活できる寿命、いわゆる健康寿命は平均寿命に比べて約十三年短い

るのですが、産婦人科が取り扱う疾患や異常においても生活習慣病と極めて深い関係にあるものが少なくありません。その代表格が閉経で、閉経に

より女性ホルモンが減り少しくまると、骨粗しょう症、脂質異常症、動脈硬化症などのリスクが女性に将来、高血圧症や脂質異常症に発展するリスクが明らかになってい

ますし、妊娠高血圧症までは行かなくとも妊娠中に血圧が高めであった女性には将来、高血圧症や脂質異常症に発展するリスクが明らかになってい

ます。また、若年女性の月経痛や、不妊症の原因疾患として治療が必要な子宮内膜症は閉経後、女性の脳卒中、循環器疾患などのリスクとなることと、あるいは子宮内膜がんや卵巣がんのリスクともなっています。

女性医学

は広く知られていること
対する予防策としてホル
ます。また、若年女性の

か。
次回は2月20日掲載